

「小さい単組ですが・・・」

平成26年8月4日

去る7月18日、東北町職員組合第46回通常総会において、執行委員長に就任いたしました。来賓として濱村中央執行委員長にもご臨席頂き、向こう一年間の活動方針及び全ての議案が承認され、盛会の内に閉会出来ました。濱村中央執行委員長におかれましては、大変お忙しい中、しかも突然の歯痛に襲われながらも、痛み止めで何とか堪え忍んで参加下さり、総会後の懇親会、その後の二次会と、とても辛かったことと思いますが、ホテルに帰られるまでお付きあい頂き誠にありがとうございました。

自治労連の定期大会が第45回なのに東北町職員組合の総会が46回なのは？とお思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、我が単組の沿革を紹介します。

今から46年前、東北町には2つ労働組合(一方は自治労)がありましたが、昭和43年12月に合併結成しました。昭和45年に自治労連へ加盟し、今現在に至っています。そういうわけで、総会の回数が1回多いのです。

さて、平成17年3月31日に旧東北町と旧上北町が合併して現在の東北町は誕生しました。合併後の東北町には、再び2つの労働組合が存在することとなりました。一方は自治労連、もう一方は自治労です。我々は、以前から労使協調、当局との話し合いによる交渉を続けており、合併後も実施しておりましたが、数年前から当局からの意向で自治労側と合同で団体交渉等を行うようになりました。町長からは、ことある毎に「二つの組合があるが、町も合併したことだし同じ職員同士で、なんで一つになれないのか」と嫌みを言われますが、同じ町の職員であれ、考え方が違う組合があってもいいのではないかと思います。目指すところは同じかもしれませんが、それぞれ違ったアプローチがあっても構わないと考えます。自治労は巨大な組織です。青森県内で自治労連は東北町職員組合だけです。鶏口牛後という言葉があるように、86人と小さい組織ですが、中央に執行委員を派遣し、全国のリアルタイムな情報及び様々な課題への取組に関する情報も、すぐ入手可能です。デメリットばかりでは無いのです。いずれは一つになる可能性は有るかもしれませんが、自治労連東北町職員組合としての活動は、引き継がれるものと確信しております。

自治労連は全国的にみれば小さい組織ですが、45年という長い歴史の中で、労使協調路線とりながら自由にして民主的な労働運動を展開してきました。その中で先輩方が築いてこられた伝統と実績を、後輩達に引き継いでいけるよう全国の仲間と共に頑張っていきたいと思います。

最後に、中央執行委員の皆様には1年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。私の後任として、副執行委員長の下田潤一が今後皆様のお世話になるかと思っておりますので、よろしく願います。